



学校だより

日野南小学校ホームページ

<http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/hinominami/>



令和8年6月30日

7月号

横浜市立日野南小学校

大切なことって何だろう。

児童支援専任 杉本英人

もう、6年も前になりますね。世界中が「コロナ」によってさまざまなダメージを受けました。しかしそのことをきっかけにして、当たり前と思っていたことがそうではないということに気づいた人も多かったかもしれません。「大切なことって何だろう」。これはコロナ禍の折に生み出した、「学級通信」のタイトルです。それまでもいろいろなタイトルを考えて一年間毎週学級通信を出していたのですが、この時ほど、深く考えさせられたことはありませんでした。

今年は「児童支援専任」という横浜市が全国に先駆けて導入した役割を与えられて仕事をしています。「支援」という言葉がついているので、どんなことができるのだろうと考えざるを得ませんが、少なくとも「やってあげる」のではないと認識していますので、「どうやったら、子どもたち一人ひとりが、自分の力でやり遂げた、と思えるように成長を支えることができるのだろう。」ということを常に考えながら仕事にあたっています。

今年は学級通信を書く機会がなくなってしまったので、以前に書き溜めた文章を読み返していたところ、面白い文に再会しました。

先日、新聞を読んでいたところ、「休校中の勉強、頑張れた子ばかりじゃないでも、決して責めないでほしい」(2020.6.6 朝日)という記事が出ていました。

「あり余る時間を勉強に充てられるごく一握りの勉強好きな子や、将来の自分との対話にたけた、いわゆる『努力の天才』のような子がいる一方で、(中略)ほとんどの子は、『この機会にできるだけたくさん勉強したほうが良いことはわかっているのにそこまで頑張れない自分』と向き合わなければならないストレスを長期にわたって抱えていたはずだ。(略)『やらなきゃいけないことはわかっているのに、できない』状態は、人間にとって非常に辛いものです。でも人生においてはそのような状況に陥ってしまうことがたびたびあるのも事実です。(略)生きていくうえで、意思の力だけではどうにもならないことがあります。それを知ってこそ、うずくまる弱者に手を差し伸べることができる人間になります。(略)」

時期や世の中は変わりましたが、この記事にあるように、自分の心の中でだけ「困り」、「みんなと同じようにできないなあ」などと考えている子どももいるのではないのでしょうか。児童支援専任として想像力を働かせ、その人にとって「大切なことは何だろう」と考えるようにすることの重要性を、大人として、支援する立場として、保護者の方とともに考えていきたいと思います。

川で捕まえたモクズガニ（本文とは関係ありません。）

